

吉祥寺図書館の在り方について

平成 27 年 7 月

武蔵野市教育委員会

1 現状と課題

武蔵野プレイスの開館により、市内3駅勢圏に図書館を1館ずつ設置する3館構想が実現され、武蔵野市図書館基本計画においては、3館それぞれが地域や施設の特性に応じた蔵書資料、逐次刊行物の収集、レファレンスサービスの提供を行うことの提言がされている。

現在の吉祥寺図書館は、蔵書数、貸出数、予約件数といった図書館の主要指標において、他市の地域図書館に比べて同等以上の水準を有する。利用者に関しても、平日昼間においては高齢者、夕方以降は学生やビジネスパーソンの利用が多く、土日休日はこれに親子連れの子育て世代が加わり、多様な層で賑わう図書館である。しかし施設規模が小さいために、中央図書館のような蔵書数及びそれに付随するレファレンス機能、武蔵野プレイスのような多様な活動を支援する複合機能を有することができず、特徴の少ない図書館となっている。また、一番の特色である吉祥寺駅近接という立地に関しても、強みとして発揮できていないのが現状である。

そこで図書館としての基本的な機能を維持すると共に、地域や施設の特性に応じた特徴を創出し、より魅力的な図書館を目指すため、次のとおり基本課題を設定した。

- ① 吉祥寺図書館の魅力をいかに高めていくか
- ② 吉祥寺という街の特性、繁華街の真中にあるという立地をいかに活かしていくか
- ③ コンパクトな施設規模をいかに活かしていくか
- ④ 市の全体最適を目指す中で、図書館としていかに課題解決に取り組むか

2 基本理念

上記の基本課題を踏まえた上で、その方向性を吉祥寺図書館のビジョンとして表現するためのキャッチフレーズとして基本理念を検討した。その立脚点になるのが、吉祥寺というエリアが子どもからお年寄りまで多様な来街者や地域住民を内包していること、今後もその傾向が続くと推測できることである。

利用者カードを持たない来街者、日頃利用しづらい子育て世代、利用の少ない中高生世代等、潜在的利用者を含めた全ての利用者が気軽に立ち寄りたくなる魅力的な図書館を目指し、多様な人々が本を通じて集まり、人とまちと図書館のネットワークを形成していく。そしてそのことが地域づくりに貢献し、図書館基本計画において掲げた「人々が交流し文化を創造する地域拠点としての図書館」を実現していく。そのような思いから生まれたのが次の基本理念である。

「小さなオアシス吉祥寺図書館 ～気軽に楽しく知的な出会いを～」

「小さな」という言葉は、吉祥寺図書館のコンパクトさ、大通りから路地裏に入り喧噪を少し離れた意外な立地を表現している。「オアシス」という言葉は、様々な国や地域から人が集まり、心を落ち着かせる場所を連想させることから、様々な人を惹きつける図書館という意味が込められている。

さらに副題における「気軽」、「楽しく」、「知的」という言葉は、来街者、子どもと保護者、高齢者、中高生など様々な人が立ち寄りたくなる場所、知的好奇心を満たせる場所であり、人と

情報、様々な人と人が「出会う」まちづくりの拠点になるという志向を表現している。

3 利用者層別のアプローチ

吉祥寺図書館の利用者層別に、各層にどのような価値を提供し、魅力を高める等の課題と向き合うか検討した。

(1)ビジネスパーソン:利便性の向上

この利用者層は、ネット等で本を予約し、勤め帰りに図書館で本を受け取る人が多いので、予約取り置きコーナーの整備、自動貸出機の増設、土日の開館時間の延長が、サービスの向上及び利用促進につながると考える。

(2)来街者:ハイパーローカル情報の提供

吉祥寺の多くの来街者に気軽に立ち寄って楽しんでもらうことを目的として、他では目にする事のないハイパーローカル（※吉祥寺に特化した、地元密着）情報を提供するとともに、ツイッターやフェイスブック等のSNSを利用して発信する。

① 本を通じた吉祥寺のまちの人 情報の提供

商店主などの地域の有名人になりうる人物を対象に、泣いた恋愛小説、人生を変えた一冊といったテーマで、人物写真やお店の紹介を交えて本を展示する。

② 吉祥寺の書店・古本屋情報の提供

各書店・古本屋の特徴が記載されたマップや旬の情報を提供する。

③ 吉祥寺アーカイブの設置

吉祥寺特集がされた雑誌のバックナンバー等の吉祥寺の変遷が分かる資料を展示する。

(3)ビジネス支援:街の情報の提供と発信

ビジネス支援に関しては、市や近隣の商工会議所と連携することが効率的・効果的である。具体的には、創業や経営支援など市や商工会議所が提供するサービスの資料をパンフレットスタンドで紹介したうえ、司書が専門機関へ仲介するレフェラルサービス（※専門機関等を紹介するサービス）を展開する。

また、吉祥寺の事業者には小売業者・飲食サービス業者が多いため、(2)ハイパーローカル情報の提供中の「①本を通じた吉祥寺のまちの人 情報の提供」、「②吉祥寺の本屋・古本屋情報の提供」が、地元事業者の支援につながるものと考ええる。

(4)子どもと保護者:気軽さの向上

図書館は静かな場所であるため、子どもやその保護者にとっては周囲に気を使わなければならない場所であり、来館しづらい側面がある。子どもやその保護者に、より図書館や本を好きになってもらい、より多く来館してもらうため、気軽な空間を演出する。

① 専用フロアの設置

吉祥寺図書館施設の多層性を活かし、2階を図書分類にとらわれない「別置（※家庭向け実用書を中心とした本などを集めて置く）」にすることにより、子どもや家族層に特化した専用フロアとし、周囲に気を使わず家族層が利用し易い安全面にも配慮した環境を整備する。

② 「赤ちゃんオアシス」の実施

週一回程度、子どもやその保護者に積極的に来て欲しい日を「赤ちゃんオアシス」として設定・告知し、他利用者層に子どもや保護者に対する特段の配慮を呼びかける。

(5)高齢者:緩やかにつながる場の提供

図書館の利用が多い層であり、地域での奉仕活動に熱心な層でもあるため、ボランティアによる図書館コンシェルジュを展開する。また、気軽な読書会を行い、利用者同士が緩やかにつながる場を提供する。

(6)青少年:自己表現の場の提供

この利用者層は、勉強や部活動などに忙しく、来館動機が乏しい層である。そのため、図書館との繋がりが強い青少年の自己表現を起点に、青少年の来館への動機付けを強化していく。

① 吉祥寺図書館への運営参加

本や図書館好きの青少年で構成される「吉祥寺図書館図書部」を創設し、オススメ本の展示やPOP作りなどで運営に携わってもらう。一日司書体験や、地域の中学校・高等学校の図書委員会との連携も図る。

② 青少年の作品展示

地域の中学校や高等学校の部活動、近隣大学のサークルや研究室で、文学、漫画、写真、美術など図書館が所蔵する資料の種類と関連が強い団体の作品展示の場を提供する。

4 吉祥寺図書館の今後の施設改修

これまで述べてきたアプローチは、現在の施設のままでは実現が難しく、一定の改修が必要になる。なかでも次に述べる「①予約取り置きコーナーの設置と自動貸出機の増設」により、人的サービスの負荷を軽減し、新たなアプローチに向けたマンパワーを生み出す投資とする。

① 予約取り置きコーナーの設置と自動貸出機の増設

1階のアクセスの良い場所に、ICタグを読み取る「予約棚」を備えた予約取り置きコーナーを設置し、利用者が自分で予約資料を借り出すことができるようにするとともに、現在1台設置されている自動貸出機を増設し、利便性の向上を図る。

② 展示スペースの充実

通りがかった来街者からも見える1階の視認性が高いスペースを中心に、展示機能を充実させ、立ち寄ってみたいくなる図書館を演出する。また、書架の間にも様々な小展示ができるよう工夫し、図書館所蔵資料の魅力を広く伝えていく。

③ 各フロアの特徴化

地下1階は総合的蔵書、1階は展示と予約棚、2階は家族層といった特徴を際立たせる蔵書や空間にすることで、利便性の向上や図書館としての特徴が伝わり易いものにする。

5 望ましい管理・運営形態

以上のアプローチを実施し、ビジョンを実現するためには、図書館を管理・運営する組織が、企画力や調整力、行動力といったマネジメント能力を有する人材を確保することができ、本検討

で掲げられた将来像を実現できる組織力を有することが条件である。そのため、従来の行政の枠にとどまらない効果的・効率的な管理・運営が期待でき、吉祥寺のまちづくりに貢献できる管理・運営形態として、武蔵野プレイスの指定管理者としての実績と市民からの信頼を得ている武蔵野生涯学習振興事業団による指定管理が相応しいものであると考え、次にその理由を述べる。

- ① 武蔵野生涯学習振興事業団は、本市生涯学習事業の指定管理や事業の受託を通じて、また、財政援助出資団体としての市の関与を通じて、市・教育委員会と生涯学習への理念が共有されており、本検討で目指す図書館行政を通じた継続的なまちづくりを市と連携して行うことが期待できる。
- ② 武蔵野プレイスでは、図書館機能を軸に市民活動、青少年活動、生涯学習活動といった異なる機能を連携・融合させるなど、本検討の目指すものと類似の活動を行っているため、事業運営のノウハウやネットワークを生かすことができる。
- ③ 武蔵野プレイスの指定管理と一体化することにより、団体のスキルの蓄積・継承がより有効に、継続的に行われる事になり、事業の安定的な実施、事業水準の維持及び向上が期待できる。
- ④ 武蔵野生涯学習振興事業団では司書等の確保並びに、各種研修機会の拡充により職員の資質と能力の向上に努めている。また嘱託職員から固有職員への登用制度を整備するなど人材の育成・定着を図っている。

以上のメリットや費用対効果などを総合的に勘案して、武蔵野生涯学習振興事業団が最善の選択であると考えます。

6 中央図書館を中核とする市立図書館の在りかた

中央図書館改築に向けて報告された「武蔵野市立中央図書館基本構想 最終報告（平成2年）」では、中央図書館は市立図書館が一体となって有機的に管理運営される図書館システムの中核とされ、地区館のバックアップと共に、図書館全体の総合的な企画・運営、資料部門、学校連携や障害者サービス等の奉仕部門の管理を担うことが掲げられている。同時に地区図書館としての役割も掲げられ、利用者のみならず周辺住民にとって身近な図書館であることを目指している。

本報告で掲げられた吉祥寺図書館の将来像の実現は、上記の考えを継承し、発展させていくための重要な施策と考える。市内各館が地域や施設の特性に応じた特徴ある図書館を目指すと共に、その特徴を市立図書館の一体的運営に活かし、また、図書館全体の総合的な企画・運営等を各館の特徴へと吸収させていく、双方向的かつ有機的な図書館ネットワークの実現が望まれる。

以上を踏まえると、中央図書館は、武蔵野プレイスの開館、本検討で実現される吉祥寺図書館の活性化による大量の蔵書の流通とそれに付帯したサービスを担う施設機能上の中核、ICT 技術を活用した図書館情報システムの発展を担うシステム機能上の中核、時代のニーズに合わせた総合的な企画・運営を担う図書館施策上の中核として機能していく必要がある。

吉祥寺図書館平面図（案）

